様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月　１日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０３３００６２
研究課題名（和文）　医療・福祉システムの実証分析と持続的・効率的制度の設計

研究課題名（英文）　Design of Sustainable and Efficient Health Care and Welfare System with Empirical Analysis

研究代表者
岩本　康志（IWAMOTO YASUSHI）
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：４０１９３７７６

研究分野：経済学
科研費の分科・細目：財政学・金融論
キーワード：医療保険，介護保険，人口変動

１．研究計画の概要

この課題では，持続可能で効率的な医療・介護システムはどうあるべきかを研究する。(1)まず，「持続可能」の側面では，少子・高齢化のなかで必要な給付費用をどのように財源調達するのか，を検討する。研究の中核をなすのは，政策への応用を重視してこれまで開発してきた医療・介護保険財政モデルである。厚生労働省・内閣府による将来予測とも整合的になるように，最新時点の情報を即時に取り入れる構造になっている。
(2)「効率的」の側面からは，質を維持し費用を抑制するために，提供されるサービスの質を適切に評価する方法を確立する課題を検討する。この研究課題では，財政研究者と社会保障研究者を組み合わせ，財源調達とサービス提供の両面から，医療・介護システムの研究を進めていく。具体的には，医療・介護サービスの質の評価に関する研究として，グループホームのサービスの質と認知症患者の要介護度の関係について分析，国民健康保険財政の効率的運営に関する研究をおこなう。

研究組織として，財政システム班と提供システム班を組織して，それぞれ(1)，(2)の研究課題に取り組む。

２．研究の進捗状況

(1)医療・介護保険財政モデルによる分析では，2008 年度には人口構造の変化に対する感度分析を中心にした政策研究をまとめ，日本学術会議主催のシンポジウムで報告をした。2009～2010 年度には，公費負担の推計精度を高めるとともに経済前提の直近への変化を織り込んだ改訂版を作成し，費用負担の将来予測をおこなう論文を発表した。

論文では，医療・介護費用に対する公費負担は，2007 年度から 2025 年度まで GDP の 1.8%増加することが示された。2025 年度から 2050 年度にかけて，公費負担は医療が GDP の 1.25%，介護が 1.05%増加すると推計された。また，2050 年度以降も約 20 年間にわたり，公費負担総額は上昇を続ける。後期高齢者に重点的に公費が投入されていることから，公費負担の伸び率は保険料の伸び率よりも高いため，税による財源調達がより困難になることが予想される。したがって，給付と負担の関係が相対的に明確な保険料での財源調達の余地を大きくし，公費負担の比重が小さくなる方向への改革を検討する必要があることが示唆される。
(2)医療・介護サービス改善のための課題について個別研究も平行しておこなわれた。独自に収集したグループホームのアンケート調査をもとに，グループホームのサービスの質と認知症患者の要介護度の関係について分析した。また，独自に収集した国保財政のデータをもとに，運営費用を決定する要因を分析し，保険の運営に規模の経済が働くかどうかを検証した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。
（理由）

開始後 3 年間で論文発表 15 件，学会発表 12 件を数え，研究成果を順調に発表できている。
研究計画の主題となる医療・介護保険財政モ

デルでは，この研究課題でもっとも重要な改良項目となる確率シミュレーションの開発がほぼ予定通り進められた。

４．今後の研究の推進方策

(1)引き続き人口変動が医療・介護保険財政に与える影響を分析するために，長期の医療・介護費用と国民所得を予測する医療・介護保険財政モデルの改良をおこなう。医療・介護費用，金利を確率的に生成する確率シミュレーションをおこなえるモデルに拡張を図る。

(2)財政システム班と提供システム班は連携して，マクロ的な医療・介護費用に与える影響を推計し，医療・介護保険財政モデルを改訂する。その他，提供システム班は，医療・介護サービス改善のための個別研究をおこなう。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１５件）

岩本康志，福井唯嗣，医療・介護保険の費用負担の動向，京都産業大学論集　社会科学系列，査読有，第 28 巻，2011 年，159-193 頁

Yasushi Iwamoto, Tadashi Fukui, Prefunding Health and Long-term Care Insurance , Public Policy Review, 査読無, Vol. 5, 2009 年, 255-286 頁

岩本康志，社会保障財源としての税と保険料，社会保障財源の効果分析，査読無，2009 年，13-35 頁

岩本康志，行動経済学は政策をどう変えるのか，現代経済学の潮流 2009，査読無，2009 年，61-91 頁

岩本康志，福井唯嗣，持続可能な医療・介護保険制度の構築，人口減少と日本経済，査読無，2009 年，181-210 頁

〔学会発表〕（計１２件）

Yasushi Iwamoto , An Estimation of Decreases in Earnings Due to Health Deteriorations, The Sixth Joint Conference of Seoul National University and University of Tokyo, 2009 年 11 月 13 日, University of Tokyo

岩本康志，医療・介護保険財政モデル（2009 年９月版）について，現代経済政策研究会議，2009 年 11 月 28 日，淡路夢舞台国際会議場

Ryoko Morozumi, The Employment Rate of the Graduates from High Schools for the Physically Disabled, Intellectually Disabled, and Seriously Diseased, Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society, 2009 年 8 月 5 日, University of Tokyo

湯田道生，国民健康保険制度が抱える諸問題が国保財政に及ぼす影響，日本経済学会，2009 年 10 月 11 日，専修大学

Michio Yuda , Income and Substitution Effects in Physician-induced Demand: Empirical Evidence Based on Reviews of Medical Bills, 7th World Congress on Health Economics, International Health Econmics Association, 2009 年 7 月 12 日, Beijing International Convention Center, Beijing, China

〔図書〕（計　件）

〔その他〕